

【兵庫】解放前の在日同胞の暮らし、運動を伝える当時の新聞記事が、

インターネットのホーム

25周年
98.10.14

ページで近く閲覧できることになった。データベース化される記事は、京阪神地区だけでも一万六千百十五件を数える。地方的な視点から在日同胞の隠れた歴史に光をあてるものとして、今後の調査・研究活動に役立つそうだ。

ホームページでは、「神戸新聞」「神戸日報」「大阪朝日新聞」(神戸版、阪神版)、

千百十五件におよぶ記事は、在日韓国人史研究家の堀内稔さん(51)による記事を見出し総数にして一万六千百十五件にわたる。

神戸市灘区IIが、十数年かけマイクロフィルムから丹念に掘り起こし、整理した。

これを受け、研究仲間の

京都大学人文研究所の水野

直樹さんが、データベース

を構築すべく取り組んでい

る。早ければ十一月にも立

ち上げる計画だ。

内容は大きく労働運動や

労働争議に関するものが多

く、続いて失業者問題、教

育をめぐる運動、密造酒に

関わるもの、広く社会問題

一般に分かれる。たとえ見

出しだけとはいえ、当時の

世相の一端を浮かび上がら

せており、興味深い。

たとえば、在日韓国人を

見る日本人住民の視点もそ

のひとつ。「朝鮮労働者内

地移入とその将来」(一九

一七年八月、毎日新聞四回

連載)と題した記事を見る

と、韓半島からの渡日労働

者は当時まだ珍しい存在

だったようだ。しかし、そ

の人数が増えはじめるにつ

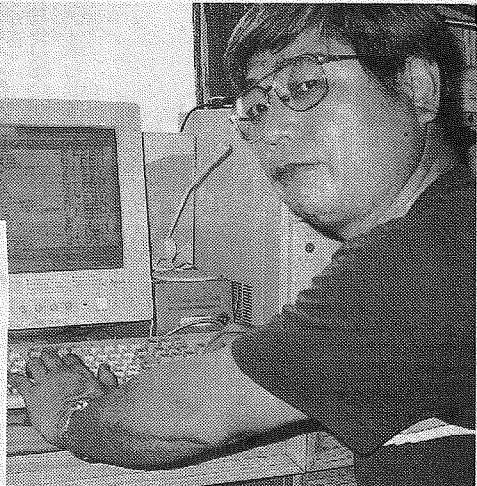
在日同胞史

解放前

ネットで検索

新聞見出し1905~1945年

阪神地区16115件



25周年
98.10.14

れて、だんだん社会問題化していく。
一九一〇年代になると、不況のまゝただなかで失業者が増え、住宅難も深刻に。「潮のように流れ込む鮮人の群れ」(一九二三年四月二十四日付け、毎日新聞)

はやがて日本人住民にとって脅威に映りだす。「大阪市周囲は鮮人村で取り巻かれ『人口四千の鮮人町』ができ、「下宿だけでも三百戸」といった見出しが踊りだす。

当時の新聞は在日韓国人

の生活相もあぶりだしていく

。『わづかな船員だ

けれど先まゝ暗な出稼ぎ』、

いる。韓国併合の以前から

「わづかな収入を割いて五
十銭、一圓の送金」。これ
は「在神、朝鮮の人達」と
題して毎日新聞(一九二六年
十一月)に連載された記
事の一例だ。

日付け朝日新聞には、神棚

をリヤカーに積んで配り歩

く写真が掲載されている。

組む水野さんは、「見出し

イルムを丹念にあたること

で、兵庫県における韓国人

の隠れている歴史について

官憲資料からほつかがい知

ることのできなかつた「新

しい事実」も多く発掘して

していきたい」と、協力を

呼び掛けている。

日本人研究者
10年がかりで集収